

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-1228
施設名	油面ちとせ保育園
施設所在地	東京都目黒区中町1-5-5
法人名	社会福祉法人ちとせ交友会

## 1. 活動のテーマ

<テーマ>

・光

<テーマの設定理由>

・日頃の生活の中で、光に対する疑問を抱いたり、遊びに繋げていく姿が見られるため、子ども達の興味関心を広げていけたらと思い、光をテーマに設定した。

## 2. 活動スケジュール

○令和7年10月～令和8年3月

・乳児、2・3歳児

光をテーマに、室内で光に携わる遊びをいくつか準備し、子ども達が自由に遊んで過ごす。保育士は、子ども達の遊びが発展していけるよう、サポートしながら、楽しんで過ごせるよう見守り、次の活動に繋がるような場面があれば、必要な準備を行ない、子ども達の興味関心が発展していくようサポート行なう。

・4・5歳

秋頃から、影踏み鬼などの、簡単な集団遊びから、光への興味を深め、スクリーンを使った影絵やステンドグラス、プラネタリウム作りなど、光に繋がる遊びを、子ども達の気付きや関心を元に準備し進めていく。

○12月

・光をテーマにしたイベントに参加し「やってみよう」「作ってみよう」などの、興味関心の輪を広げる。

○1月～2月上旬

・子ども達の興味関心に合わせて、イベントで使用した、光遊びの素材（ライトテーブル等）を使って遊びに取り組み、子ども達の発見や興味関心を記録し、次なる活動へと繋げる。

○2月下旬から3月上旬にかけて

・外部講師の方に来ていただき、子ども達向けの、専門的な話や実験を、何日かに分けて行い、最終的に3、4歳児は「自分の星」5歳児は「自分のプラネタリウム」を作る活動を行なう。

## 3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・段ボールトンネル・懐中電灯12個・スクリーン・家庭用プラネタリウム  
・アクリル積み木・ライトテーブル・プロジェクター・書画カメラ

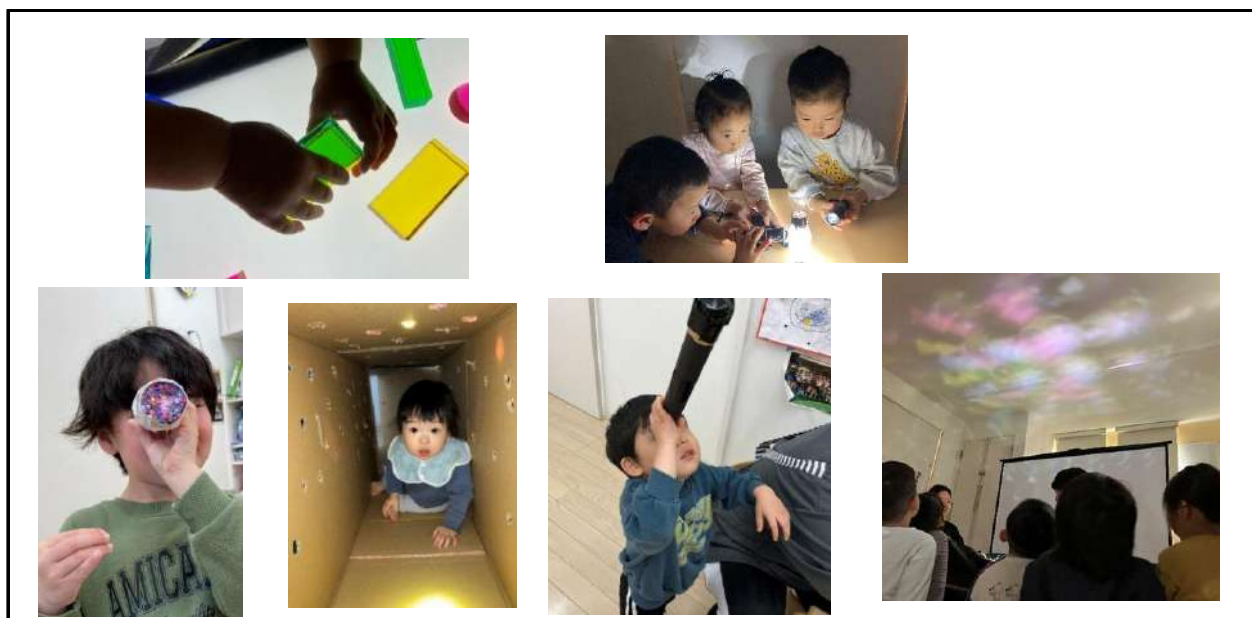
#### 4. 探究活動の実践

##### <活動の内容>

- ・今回は、光による物の見え方の変化、光の中にある三原色について等、光にまつわる活動を通しての、探究活動を行なった。
- ・全クラス共通で、懐中電灯やスクリーン、ライトテーブルや透明積み木など、興味をもった物を通して探究心を養い、光による物の変化を楽しみ、気付きや発見を、友達や保育者と共に、共有して楽しむ。
- ・光専門の外部講師を呼び、光についての歴史や、分光筒の製作を通し、光の中に潜む色を、実際に目にして発見する機会を設けたりし、光への探究心を養う。
- ・5歳児に関しては、卒園遠足で行く「未来科学博物館」の活動と兼ねて、外部講師の方と一緒に、段階を踏んで星への興味を深め「皆のプラネタリウム」作りを行う。
- ・3、4歳児は、外部講師の方に、光の三原色と星について触れた話や実験を行なっていただき、探究心を養い「自分の星」を作り、光への興味を深める。
- ・最後は、3、4、5歳児の「自分の星」と「皆のプラネタリウム」を合わせて、感想をい合い、感動を共有した。

##### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・懐中電灯に付いた絵を壁に映し出し「近づくと見えない」離れてみると「絵が大きくなった」などの気付きがあった。
- ・透明積み木をライトテーブルの上に置いてかざすと「色が黄緑に変わった」「重ねすぎると色が暗くなった」長方形の積み木を上から覗いた際に「中に小さい四角が沢山映ったよ」と、光の影響から、物の見え方が変わることに気付く。
- ・スクリーンに映る手の影を使って、友達同士で、ごっこ遊びに繋げる姿が見られる。
- ・外部講師の光の三原則の話に興味を持って取り組み、実践を楽しむ。
- ・光活動の取り組みの中で、星や宇宙に興味を示す姿が見られる。
- ・懐中電灯を使った「星探しゲーム」「星座探しゲーム」を行なう中で、自分や家族の星座などに興味を抱く姿が見られる。
- ・外部講師の活動「自分の星」「みんなのプラネタリウム」作りでは、これまでの活動で感じた事や知った事を取り入れながら、製作に取り組んでいた。



## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た先生の気づき>

- ・同じ教材でも、回数を重ねることで、遊び方を変化させて楽しむ姿が見られていたため、「光」活動が終わった後も、継続して遊びに取り組めたらいいと感じられた。
- ・子ども達の興味関心を元に進めていくが、「光」をテーマとした活動の為、内容が難しくなってしまう、子ども達も飽きてきてしまうのではかと思っていたが、そういった様子も無く、子ども達なりに理解し楽しむ姿が見られていて良かった。